

米穀流通における包装の量目に関する検討について

令和3年12月
農林水産省農産局企画課

1. 検討の背景

○米穀の商慣習に関する意見交換会とりまとめ報告（令和3年2月）

（5）30kg紙袋の見直し

現在の紙袋での出荷・流通の主流となっている30kg袋に包装された米のばら積み・ばら下ろしは、運送事業者から敬遠される傾向があることから、今後の物流を持続的に確保するためには、20kg袋に転換する等、軽量化すべきとの問題提起があった。

これに対し、アンケート調査では、軽量化した場合の袋詰めや積み下ろしの手間・時間の増加、袋代等のコスト増への懸念等が示され、本意見交換会では、「物流側との話し合いも重要」との指摘があった。

このため、物流側の視点も含めた上で、検討を継続することとしてはどうか。

○規制改革実施計画（令和3年6月18日閣議決定）

（15）農産物検査規格の見直し

No.	事項名	規制改革の内容	実施時期	所管府省
20	農産物検査規格の見直し	a～e（略） f 包装の量目については、物流側の視点も含めて検討の上、結論を得、必要に応じて措置を講ずる。 g～m（略）	a～e：（略） f：令和3年度検討・結論、必要に応じて速やかに措置 g～m：（略）	a, h：農林水産省、消費者庁 b～g, i～m：農林水産省

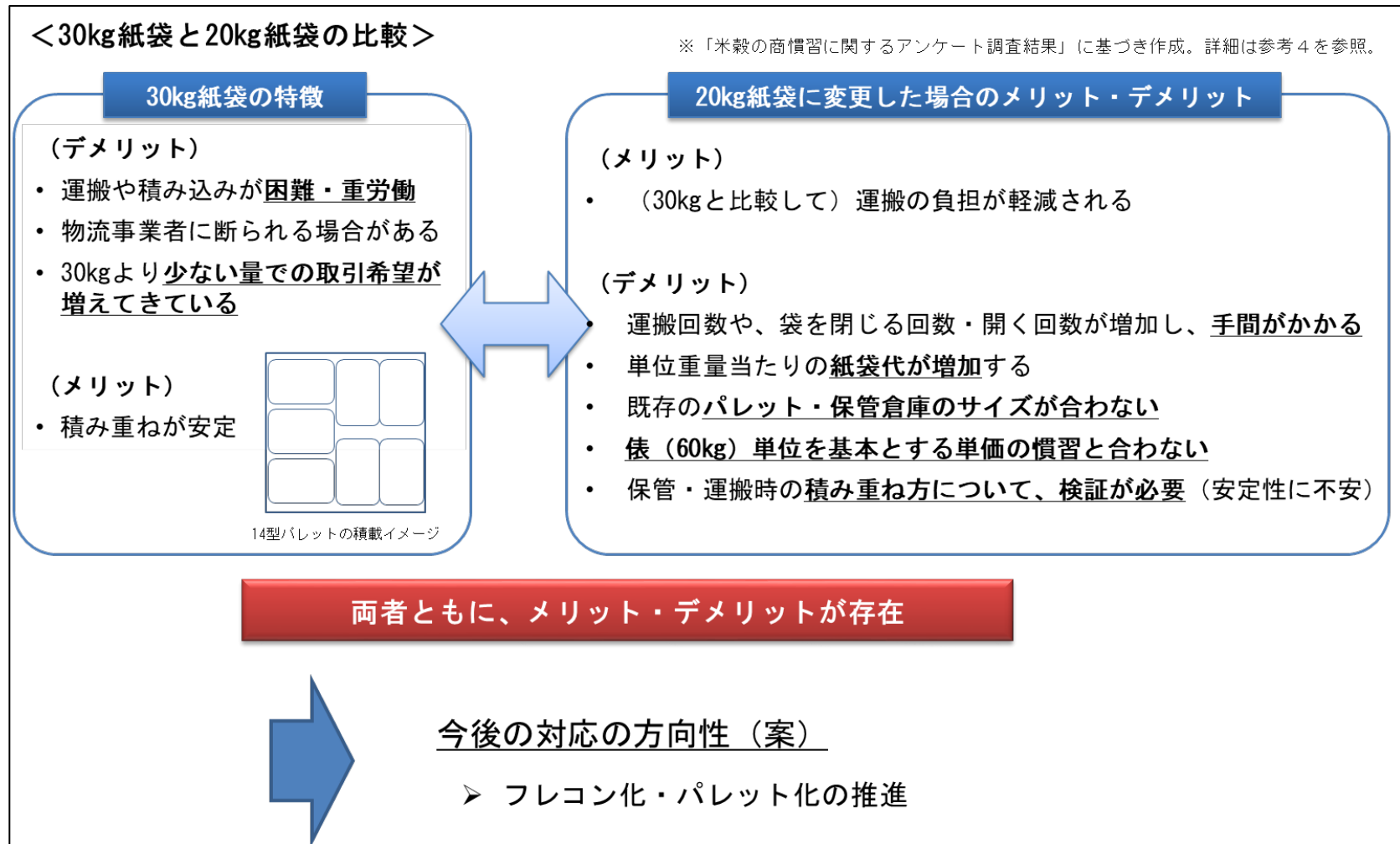
これらを踏まえて、物流事業者を交えた勉強会（令和3年7月）を開催し、意見交換を実施。

2. 米の物流合理化に関する勉強会（令和3年7月開催）における検討

（1）勉強会の出席者

農林水産省、生産者団体、集荷業者、卸売事業者、物流事業者、その他（食品関連業界団体、研究機関等）（合計29名）

（2）30kg紙袋（玄米）に関する配布資料



2. 米の物流合理化に関する勉強会（令和3年7月開催）における検討

（3）出席者からの主なコメント

- ・ 20kg紙袋とすると手間が増えるため、現状では切替えは難しいのではないかと。（物流事業者A）
- ・ 30kgの荷物（重量物）としては、米以外に水などもあり、これからも配達は継続を予定。（物流事業者A）
- ・ 30kg紙袋は「物流事業者に断られる場合がある」とあるが、主な物流事業者は、現在、30kg紙袋の配達を実施。将来的には、仕分けや宅配ドライバーが負担なく運べるようにすることは、米に限らず、考えていかなければならない。（物流事業者B）
- ・ 15kgや20kgの紙袋と30kgの紙袋とが混在すると、現場での混乱が予想される。合理的な輸送手法としては、30kgがベストではないかと。（物流事業者C）
- ・ BtoBの取引では、フレコン化・パレット化が重要。他方、高齢化などへの対応を考えると、30kgは大きな負担であり、例えば、自宅向け・米専門店向けには20kg紙袋も1つの選択肢。資材コストの上昇や生産者の手間の増加も踏まえて、用途別に考えるのが良いのではないかと。（その他D）

（4）今後の対応の方向性 フレコン化・パレット化の推進、20kg袋の利用に関する事例紹介

（5）関連する動き

① 宅急便の取扱いサイズ拡充（令和3年10月～）

ヤマト運輸（株）は、令和3年10月4日から宅急便の取扱いサイズに、180サイズ、200サイズ（ともに30kgまで）を新設。

これにより、従来ヤマト便（3辺合計200cmまで、30kgまで）で対応していた30kgの荷物についても、宅急便で扱えることとなり、各種割引制度や送り状発行サービス、さらに配達時の時間帯指定やセンターでの受け取りサービスを提供し、利用者の利便性向上を目指す。

（なお、これに伴い、同年10月3日荷受け分をもってヤマト便を廃止）

② 20kg紙袋の導入事例（令和3年9月～）

農業生産法人の（株）ヤマザキライスでは、令和3年9月の皆掛重量の廃止のタイミングに併せて、働き方改革などの観点から、自社で使用する紙袋について、30kgから20kgに全面的な切替えを実施。



米穀の商慣習に関するアンケート調査結果

令和2年12月
農林水産省政策統括官

米穀の商慣習に関するアンケート結果

1 調査概要

- (1) 調査内容 生産者、集出荷業者、卸売業者、小売、中食・外食事業者に対して、「余マス」と「物流(紙袋のサイズ)」に関して、現状や今後の対応方策等に係る認識についてアンケートを実施
- (2) 調査期間 令和2年10月16日(金)～令和2年11月13日(金)
- (3) 回答者数 447件(生産者164件、集出荷業者150件、卸売業者78件、小売、中食・外食事業者55件)
- (4) 調査方法 農林水産省ホームページに、各回答者毎にアンケートフォームを設置
- (5) 調査対象者の状況

①生産者

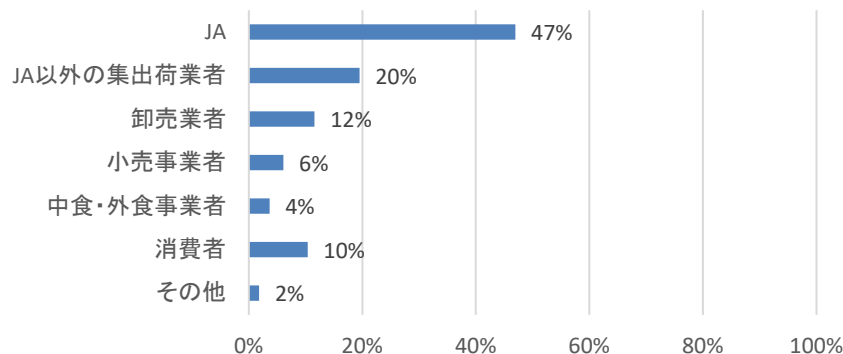
- ・ 回答数:164件
- ・ 地域

北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州
7%	17%	21%	15%	13%	15%	4%	4%	4%

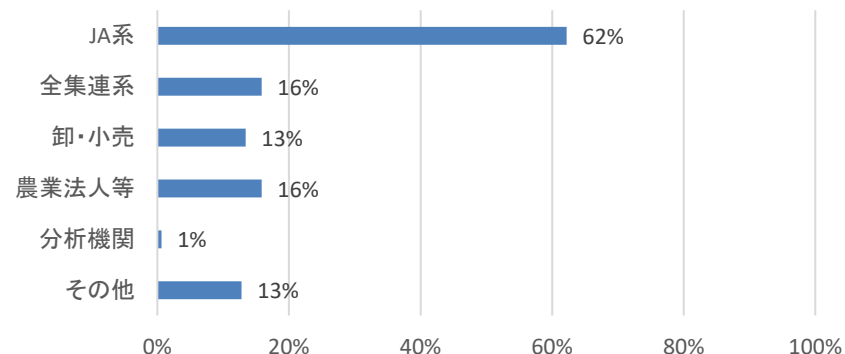
- ・ 令和2年産米の出荷数量(見込みを含む) 有効回答数139件

出荷数量	50トン未満	50トン以上 250トン未満	250トン以上 500トン未満	500トン以上
生産者	37%	47%	8%	8%

- ・ 主な取引先



- ・ 農産物検査を受ける登録検査機関(複数回答可)



米穀の商慣習に関するアンケート結果

②集出荷業者

- ・ 回答数: 150件
- ・ 地域

北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州
7%	21%	10%	25%	3%	10%	10%	3%	12%

- ・ 令和2年産米の取扱数量(見込みを含む) 有効回答数146件

取扱数量	500トン未満	500トン以上 5,000トン未満	5,000トン以上
集出荷業者	18%	39%	43%

- ・ 農産物検査機関としての登録有 86%

③卸売業者

- ・ 回答数: 78件
- ・ 地域

北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州
8%	6%	4%	27%	10%	23%	6%	0%	15%

- ・ 令和2年産米の取扱数量(見込みを含む) 有効回答数69件

取扱数量	5,000トン未満	5,000トン以上 50,000トン未満	50,000トン以上
卸売業者	35%	57%	9%

※ラウンドの関係で合計は100%にならない。

- ・ 農産物検査機関としての登録有 51%

④小売、中食・外食事業者

- ・ 回答数: 55件
- ・ 地域

北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州
2%	0%	0%	31%	7%	42%	9%	0%	9%

- ・ 小売り、中食、外食の割合 ※複数回答可。合計は100%にならない。

小売	中食	外食	その他
91%	5%	5%	5%

※地域分類について

東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 北陸: 新潟、富山、石川、福井
 関東・東山: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
 東海: 岐阜、静岡、愛知、三重
 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 中国: 鳥取、島根、岡山、広島、山口
 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島

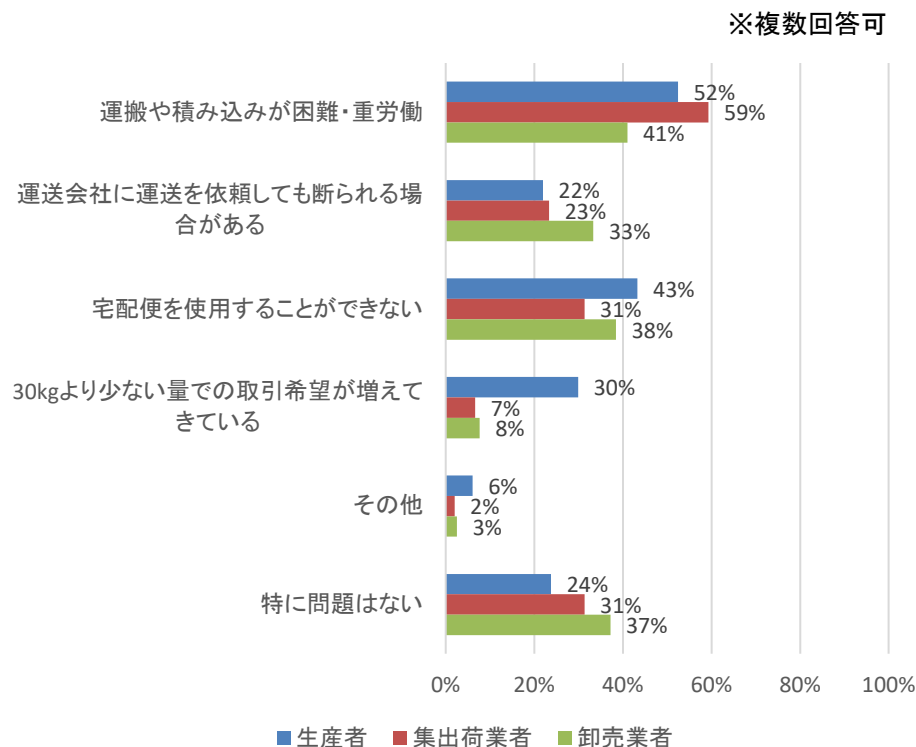
※アンケートへの回答のうち、現行の法令・制度と齟齬のある回答も一部含まれるが、回答者の認識を正しく表すため、そのまま掲載している。

米穀の商慣習に関するアンケート結果

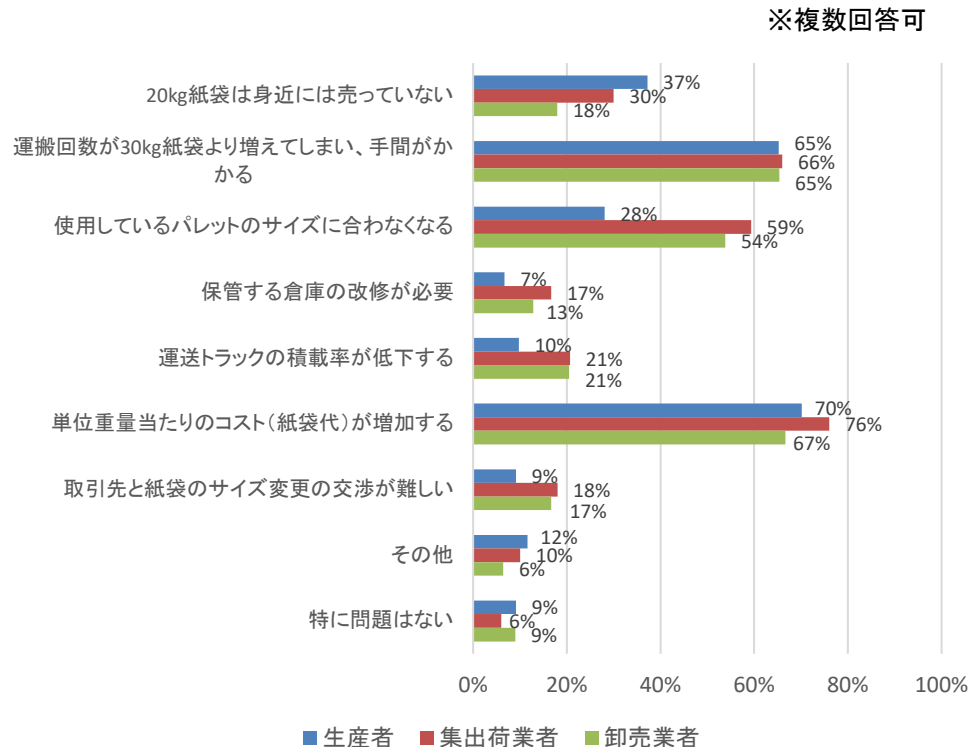
10 物流(紙袋のサイズ)

- 30kg紙袋の取引で不都合なこととして、共通で「運搬や積み込みが困難・重労働」、次いで「宅配便を使用することができない」との回答が多いが、卸売業者の4割、集荷業者の3割、生産者の2割が「特に問題ない」を選択。
- 生産者の3割が「30kgより少ない量での取引希望が増えてきている」と回答している。
- 20kg紙袋の導入に不都合なこととして、共通で約7割の者が「積み下ろしの手間が増えること」、「包装代コストが増えること」を挙げ、集出荷業者と卸売業者の5～6割は「パレットサイズとの不一致」と回答している。

(1) 30kg紙袋の取引で不都合なこと



(2) 20kg紙袋の取引で不都合なこと



米穀の商慣習に関するアンケート結果

10 物流(紙袋のサイズ)に関する主な意見

➤ 生産者

○軽量化の課題に関する意見

- ・ 20kg袋では保管時の積み重ねが不安定になる。
- ・ 20kg紙袋の検査袋が手に入らないし、60kgあたりの余マスが増えてしまう。
- ・ 30kgの袋の型、版が全て無駄になり、作り直すのもお金がかかる。
- ・ コメの場合、慣習的に数量単位が今でも「俵」が標準的に使われているため、0.5俵の30kgでないとい計算しづらい
- ・ 粳すり機の能率と紙袋を結ぶ能率のバランスが合わない。また、袋の口を閉じる回数が増え、袋の口を縛るのが大変になる。簡単に綴じれるよう袋の改良が必要。

○軽量化すべきとの意見

- ・ 20kgだと升、合の容積に変換しにくいので3の倍数。例えば15kgなどが良い。
- ・ 20キロにするぐらいなら15キロのほうが小売店などは扱いやすいのではないか。
- ・ 高齢であるため、30kg袋での扱いは負担が大きい。15kgないし20kg袋での取り扱いに変更いただくことが望ましい。
- ・ 生産者も高齢者が多くなり、30kgの紙袋は正直つらい。肥料袋も15kgのサイズのものできているように、米袋についても検討が必要。
- ・ ゆうパックでは25kg以上は重量扱いになり運賃が跳ね上がるため、30kgの袋から6kg抜いた24kgで配送しているが、米穀店によっては規格袋を指定される場合があり少数の注文の場合送料がかさむ。また、郵便局以外では米袋のまま発送ができず箱代が別途かかる。20kg又は24kgの検査袋があれば便利。

○単価設定に関する意見

- ・ 30kg単位の単価を、1kg単位に統一してほしい
- ・ 小さい袋は魅力的だが、それに見合った単価設定が大変。
- ・ 現状では、30kgと20kgの在庫管理や取引価格の設定など2通りの流通に対応できていない為、商慣行の移行をスムーズに行う為の事前整理が必要。
例：kg単価取引にするか、30kg用、20kg用の単価を設定するか。基本は30kgの方がkg単価設定は下がるものだが、同じでやるかなど

○その他の意見

- ・ 基本はフレコンの取引にすべき。
- ・ パレットの規格に合わせた重量（例えば1袋26kg）で流通の効率を図るべき。規格を揃えるべきは紙袋よりパレットではないか。
- ・ 特に決める必要があるのか。取引先との個別協議でも良い気がする。ただ保管に使っている冷蔵庫に合わない困る。
- ・ ゆうパックでの発送には厳密に30kg以下を求められるので、余マス分を抜き取って皆掛29.8kg程度で発送し、相手にはその旨伝えている。

米穀の商慣習に関するアンケート結果

10 物流(紙袋のサイズ)に関する主な意見

➤ 集出荷業者

○軽量化の課題に関する意見

- ・ 20kg紙袋は重量が軽く安定しないため、高く積み上げできず倉庫の保管能力が低下する。
- ・ 20kg袋での取引は、米価の下落、生産者の高齢化を考えると止めるべき。生産者の中には、設備更新や環境等の問題でフレコン出荷やばら玄米出荷を出来ない方も多くおり、20kg紙袋への変更は袋詰め作業等の作業工程の増加につながる。生産者の立場で考えてほしい。
- ・ システム対応に莫大な経費がかかる。
- ・ 20kg紙袋になることで保管場所が今以上に必要になり、作業効率が悪くなると思う。実際に試験してから検討してほしい。
- ・ 20kg紙袋では、生産者側で紙袋コスト・作業コスト、集荷側で検査作業コスト、精米側で開封作業コスト・廃棄コストが上がるため、単に軽くなるだけではメリットが薄い。単に重いならば運搬時にパワーアシストスーツ等があれば良い。
- ・ 集荷・保管・運搬時に30kgと20kgが混在すると置場効率の低下や混乱を招くおそれがあるため、変える場合は一斉にお願いしたい。
- ・ 単純に30kg袋を20kgに変更した場合、取扱数が増加することにより、農家の袋購入費用の増加につながる。その場合包装コストについて生産者負担にならないような取り決めが必要。

○軽量化すべきとの意見

- ・ 農業者から消費者への販売や宅配便での発送依頼が多く、20kg袋になる事は望ましい。
- ・ 時代背景に合わせた変更は必要。

○単価設定に関する意見

- ・ 1俵(60kg)建値の商慣習があるため、20kgは端数が出やすく煩わしい。今後のフレコン流通の拡大や20kg袋の導入を考えれば、建値をトンやキロにする必要があるか。

○紙袋の取引に関する意見

- ・ 生産者の高齢化や作業効率化を踏まえ、紙袋からフレコンやCE利用にシフトしており、今後の紙袋出荷はますます減少すると思う。
- ・ 作業員の減少や高齢化に伴い、作業効率の向上や重労働軽減の為、紙袋自体の廃止が望ましい。量目を減らしたとしても運搬回数や袋詰めの手間が増加する為、意味がない。

○その他の意見

- ・ 全国にあらゆる取引先があり、それぞれに商慣習があるなかで30kgを一律に20kgに変えることは、また新たに問題が生じる。生産者を含めた取扱業者と販売先が合意の上でそれぞれが任意で設定すればよいのではないか。

米穀の商慣習に関するアンケート結果

10 物流(紙袋のサイズ)に関する主な意見

➤ 卸売業者

○軽量化の課題に関する意見

- ・ 20kgにサイズダウンになると、精米工場における原料投入時の作業効率が悪くなる。
- ・ お米の流通は小ロット多品種が主流となっているので、米穀店へ玄米販売する際は、30kg紙袋が求められる。一方で、生産と流通段階では運送業者のドライバー不足と効率化の為にフレコンバックが増加しており、末端の求める容量と生産と中間流通のミスマッチが起きている。卸の立場では、30kg紙袋が多い方が保管、販売、使用が助かるが、30kg紙袋は運送会社が運送を断る場面もあるので、30kg以下の紙袋だと余計に手間が掛かり、運送の拒否や運賃の高騰に繋がる懸念される。

○軽量化すべきとの意見

- ・ 30kgは重い、運べないとの意見が多い。かと言って全てフレコンでは小回りが利かない。軽い20kgというのは時代の流れかと思う。
- ・ 30kg以下にするなら28kgや25kgも検討してほしい。

○紙袋の取引に関する意見

- ・ 基本は紙袋は少なくしていく方向が望ましい。
- ・ 紙は産地からのパレットが全国流通パレットで、積み直しが発生しなければ、問題は解決するのではないか。小売店はまだまだ紙を必要としている。
- ・ 紙サイズに関係なく、紙袋という荷姿自体が輸送中の破袋を発生させやすいため、困っている。

玄米の流通合理化について

現状と課題

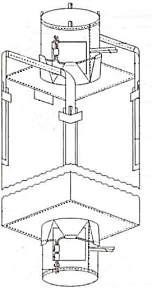
- 全国的にトラックドライバー不足が深刻化する中、重量物である米の紙袋での流通は手荷役が多く発生し、特に敬遠される傾向。
- フレコンは紙袋と比べて圧倒的に手荷役が少なく、積み下ろし時間が1/2から1/3に短縮されることが知られているが、現在の普及率は約4割に留まっている。
- フレコンの推進に当たり、フレコンの形状やサイズが複数存在することが課題となっていた。

推奨フレコンの規格化

- 令和元年に開催された「農産物の物流合理化に関する勉強会・米分科会」及び「玄米等の物流合理化に関する検討部会」での検討を踏まえ、「農産物検査規格検討会」の検討を経て、農産物検査規格にフレコンの推奨規格を制定（令和2年6月制定、令和3年6月施行）。

推奨フレコン

- ・ 充填質量：1,080kg
- ・ 形状：方形（角底型及び隔壁形）
- ・ 安全性：JISに規定された性能に適合



推奨フレコンを活用した物流効率化実証の展開

- 米の流通合理化を進めるため、玄米の推奨規格フレコンを活用した物流効率化実証を支援。（令和2年度～）

H30:フレコン率 45%

R2:フレコン率 49%